



スキー競技 県大会で優勝

市内在住の綿引一樹さん(高校2年)が、1月に行われた「第73回全国高等学校スキー大会茨城県予選」において、アルペン競技男子スラロームおよび男子ジャイアントスラロームでそれぞれ1位となりました。また、「第78回国民スポーツ大会冬季大会スキー競技会茨城県大会」においても、アルペン競技少年男子ジャイアントスラロームで1位となりました。2月1日、市長のもとを訪れ、2月に行われる「第73回全国高等学校スキー大会」と「第78回国民スポーツ大会冬季大会スキー競技会」への出場権を獲得したことを報告しました。



TOPICS

茨城ロボットPRデー

12月23日、アダストリアみとアリーナで行われた秋田ノーザンハピネッツ戦で、常陸太田市PRデーを開催しました。会場では、ひたちおたチーズや武龍ワイナリーの販売を行いました。また、試合前には市長とじょうづるさんがコートに登場し、両チームへ激励の言葉と「GO!GO!ロボット」の掛け声で会場を盛り上げました。



令和5年度教育振興大会

12月23日、パルティホールで教育振興大会を行いました。第一部では、教育に関する研究等で功績のあった教職員や、スポーツ・芸術文化等で活躍した児童生徒の表彰を行いました。また、教育振興に貢献した方々へ感謝状を贈呈しました。第二部では、市内の各小・中学校代表者による「ふるさと教育」の実践発表や、中学生代表者による「SDGsの視点に立った常陸太田市の未来への提言」をテーマにした意見交換が行われました。





金砂あおぞら塾 親子でミニ門松づくり

12月24日、赤土町集会所で「金砂あおぞら塾」が開催され、市内外から7組27人が参加しました。地元の方々の指導を受けながら、地元でとれた竹や南天、クマザサなどを飾り、それぞれの思いを込めた門松を作りました。



新春に門松を設置

12月25日、市役所と道の駅ひたちおおたに高齢者生産活動センターさとの皆さんから、門松が寄贈されました。里美地区産の竹や松、梅、南天などを使った立派な門松が、市役所の来庁者や道の駅の来場者を出迎えました。また、郷土資料館梅津会館にはACC(赤土カントリークラブ)の皆さんから寄贈された門松が飾られました。この門松は、24日に実施した「金砂あおぞら塾」の際に制作され、寄贈されたものです。



市産スギ材を使った 学習机を導入

12月25・26日、太田小・世矢中学校の学習机の天板を、市産スギ材を使った天板へ交換する作業が行われました。机が新しくなり、子どもたちからは「机がきれいで勉強しやすくなった」という声が届いています。この事業は、森林環境譲与税を活用しており、今後4年間で全市立小・中学校の机の天板を交換予定です。



住宅防火・防災アドバイザー 研修会

12月26日、令和5年中の住宅火災において4人の高齢者が亡くなったことにより、高齢者を火災から保護するため、日常的に高齢者世帯等を訪問介護・看護されているホームヘルパーを対象に、高齢者が安心して暮らせるまちづくりの構築を目的とした「住宅防火・防災アドバイザー研修会」を開催しました。研修会の参加者は、住宅火災の主な火災原因からみた住宅防火のポイントや、消火器の取扱方法、煙体験、救命処置を学びました。研修後、参加者13人には修了証が交付されました。

新年賀詞交歓会並びに叙勲祝賀会

1月5日、新年賀詞交歓会並びに叙勲祝賀会をパルティホールで開催しました。昨年、叙勲・褒章を受章された方に対し記念品を贈呈し、受章者代表として川又照雄さんからあいさつをいただきました。その後、鏡開きで新年を祝い、出席者は和やかに懇談し、親睦を深めました。



太田西山高校の生徒が生け花に挑戦

1月10日、太田西山高校生徒7人が市役所で生け花を行いました。これは授業の一環として実施したもので、生け花の講師の指導のもと、2班に分かれて取り組みました。花や木の配置、外からの見え方など意見を出し合いながら作品を作り上げました。作品は1週間市役所に飾られ、庁舎を華やかにしてくれました。



市日中友好協会 2024年新春交流の集い

1月20日、生涯学習センターで市日中友好協会（会長 中原一博）2024年新春交流の集いが開催され、会員や市民、在日中国人等45人が参加しました。会場全体は中国から取り寄せた赤色の龍などさまざまな春節飾りで埋め尽くされ、中国出身の女性の方々の指導のもと、水餃子づくり体験、地元高校生ユニットによる久自楽舞と、中国出身の方々に組織し主に福島県で活動する「つばさ会」日中 HALF 支援会」による日本と中国の舞の競演を楽しみ、お昼には水餃子や中国家庭料理を満喫するなど、本場中国の春節を楽しみました。



消防出初め式

1月6日、消防出初め式を開催しました。今回は市制施行70周年・合併20周年を迎える最初の祝賀イベントとして、大洗高校マーチングバンド「BLUE-HAWKS(ブルーホークス)」の皆さんや、1日消防長として村方乃々佳さんを迎えるなど、華やかなパレードとなりました。また、じょうづるさんとひたちおたスマイルメイツに加えて、水戸ホーリーホックのホーリーくんと、茨城ロボッツのロボスケが先頭を歩きました。消防団員や消防本部職員のほか、市内の子どもたちも参加し、4年ぶりとなる消防パレードに多くの方が足を運びました。

1日消防長として村方乃々佳さんを任命しました。
式典では元気に挨拶をしてくれました。



パーティホールでは式典を行い、オープニングアクトとして、太田さくら認定こども園幼年消防クラブ員の皆さんが大迫力の太鼓演奏を披露しました。また、ブルーホークスの皆さんによる国歌・市の歌の演奏、市消防団の功労団員や部隊の表彰のほか、消防職員・団員による活動報告を行いました。





「住みたい田舎」北関東エリア

総合部門2年連続 第1位

移住を検討する方に田舎暮らしを紹介する月刊誌「田舎暮らしの本」(宝島社)の「2024年版住みたい田舎ベストランキング」において、北関東エリア(茨城県・栃木県・群馬県)の総合部門で本市が2年連続1位を獲得しました。

農業・畜産の振興、自然の豊かさ、文化の保全、医療の充実、住宅支援のほか、移住者への歓迎度など、市の持つ特性全般において評価されました。



北関東エリア



総合部門..... **第1位**

子育て世代部門..... **第3位**

若者世代・単身者部門..... **第3位**

シニア世代部門..... **第9位**



各市町村が回答した全278項目のアンケート結果が点数化され、ランキングとして発表されています。全国では587市町村、北関東エリアでは35自治体から回答がありました。



水戸ヤクルト
販売株式会社様より
沐浴人形1体
育児手技の実習等で活用
していきます



温かいご支援
ありがとうございます



水戸ホーリーホック 2024ホームタウンPR大使が 決まりました!

水戸ホーリーホックでは、ホームタウンの15市町村との相互連携と関係強化を目的に、昨年に引き続きトップチーム所属の選手たちを「ホームタウンPR大使」として任命し、2024シーズンの活動を行います。1月14日に行われた「ホームタウンPR大使ドラフト会議」で各市町村の「ホームタウンPR大使」が決定しました。



本市のPR大使をご紹介します!



ヤマダ ナオ
山田 奈央

背番号

4

DF

誕生日 2002年11月18日
出身地 埼玉県
在籍年数 3年目

2024シーズン常陸太田市PR大使になりました山田奈央です。たくさんの方々に常陸太田市の魅力が伝わるよう頑張ります。それとともに常陸太田市の方々に水戸ホーリーホックの魅力も分かってもらえるように頑張ります!



ノゼ リュウセイ
野瀬 龍世

背番号

13

MF

誕生日 2000年2月8日
出身地 北海道
在籍年数 新加入

2024シーズン常陸太田市PR大使になりました野瀬龍世です。茨城県に住むのは初めてですが、多くを学び常陸太田市の魅力をたくさん発信していけたらと思っています!そして常陸太田市の地域の皆さんと交流して水戸ホーリーホックの応援にも来てもらえるように頑張ります!

これから山田選手、野瀬選手とともに常陸太田市のPR活動を行いながら、水戸ホーリーホックの2024シーズンを応援していきます!皆さんもぜひ山田選手と野瀬選手そして水戸ホーリーホックを応援していきましょう!

ホームタウンPR大使の目的

●地方創生&地域活性化

水戸ホーリーホックでプレーするために日本全国から集まってきたプロサッカー選手が、ホームタウンの方々と交流しながら地域の課題解決に取り組むと同時に、茨城の魅力や素晴らしさを日本全国へ向けて発信することで各市町村の価値向上を目指します。

●ホームタウンとの相互関係の連携強化

ホームタウンと、1つ1つ真摯に向き合い、地域ごとの環境や条件、ニーズに適した柔軟な対応をすることで、水戸ホーリーホックとホームタウンの関係性を構築し、相乗効果を生み出せる“真のパートナー”となることを目指します。



市制施行70周年・合併20周年 シンボルマーク・キャッチフレーズの 最優秀賞の授賞式を行いました

1月5日、賀詞交歓会の中で、シンボルマーク・キャッチフレーズのお披露目と最優秀賞の授与を行いました。
受賞者のコメントをご紹介します。



時をかさね
ともにつながる
まちづくり
輝く未来へ

シンボルマーク最優秀賞 弓野 翔平さんの受賞コメント

常陸太田市が合併したときは当時中学3年生でした。その時から20年たったんだなと感じています。今私は、検診施設で健康増進をサポートする仕事をしていますが、今回は特技のデザインで常陸太田市の活性化をサポートできたのではないかと思います。シンボルマークを作るにあたって、常陸太田市の魅力を詰めました。竜神大吊橋やぶどう、お米、市の鳥、市の花を取り入れて、70周年20周年を大きくあしらいました。

常陸太田市がこれから発展するとともに明るい未来を築けますことを願っております。



キャッチフレーズ最優秀賞 石川 八千代さんの受賞コメント

常陸太田市は誰もが知っているように歴史と文化あふれるまちです。この素晴らしいまちは一朝一夕にできたわけではありません。中島みゆきさんの「糸」という歌の歌詞のように、縦の糸は、時間という時の流れの中で、途切れることなく常陸太田という時をかさねてきた事実、そして、横の糸は生活している人々のつながり、時代の流れの中で人々がともにつながり一生懸命まちづくりに励んできた事実、その縦の糸と横の糸が織りなして、現在の素晴らしいこの常陸太田市の姿があるのだと思います。今を生きる私たちには、この素晴らしいまちをさらに輝く未来へつないでいく責任があります。

そんな思いで作ったこのキャッチフレーズが、市民の皆さんに受け入れてもらえたら大変嬉しく思います。



市制施行70周年・合併20周年記念 協賛事業募集

「市制施行70周年・合併20周年記念」の名称を付して実施する協賛事業を募集します。

◆**対象期間**: 令和7年3月31日までに実施する事業

◆**対象事業**: 次のすべてに該当する事業

- ・常陸太田市市制施行70周年・合併20周年記念事業実施方針に則したものの
- ・実施場所が常陸太田市内であり、多くの市民の参加が見込めるもの
- ・実施団体の組織、責任者等が明確であるもの
- ・営利を主たる目的としていないもの
- ・政治、宗教、思想の為の活動ではないもの。また、反社会的な活動でないもの
- ・法令等に違反しないもの、またはそのおそれがないもの

◆**対象者**: 次のすべてに該当する方

- ・公共的団体またはこれらに準ずる団体(宗教法人および政治団体を除く)
- ・市民の福祉または文化の向上、地域振興や本市の発展に寄与しようとする市民団体
- ・その他、市長が適当と認める団体



- ◆**支援内容**
- ・「常陸太田市市制施行70周年・合併20周年記念」の冠称の使用
 - ・「常陸太田市市制施行70周年・合併20周年記念シンボルマーク・キャッチフレーズ」の使用
 - ・市の広報媒体(広報紙・お知らせ版・ホームページ等)を通しての事業PRの実施

◆**申請方法**: 申請書をダウンロードし、必要事項を記入の上、申請先に直接持参するか、郵送またはメールで申請してください。

◎申請をご希望の方は、事前にお問い合わせください。

シンボルマーク・キャッチフレーズの使用について

協賛事業以外でも、シンボルマークおよびキャッチフレーズを使用することが可能です。使用をご希望の方は、下記申請先へお問い合わせください。

◆**使用期間**: 承認後から令和7年3月31日まで

◆**申・問** 政策推進課(内線372) / 〒313-8611 金井町3690番地
メール seisaku@city.hitachiota.lg.jp

こちらから
アクセス!

市ホームページ
申請書のダウンロードは
こちら

